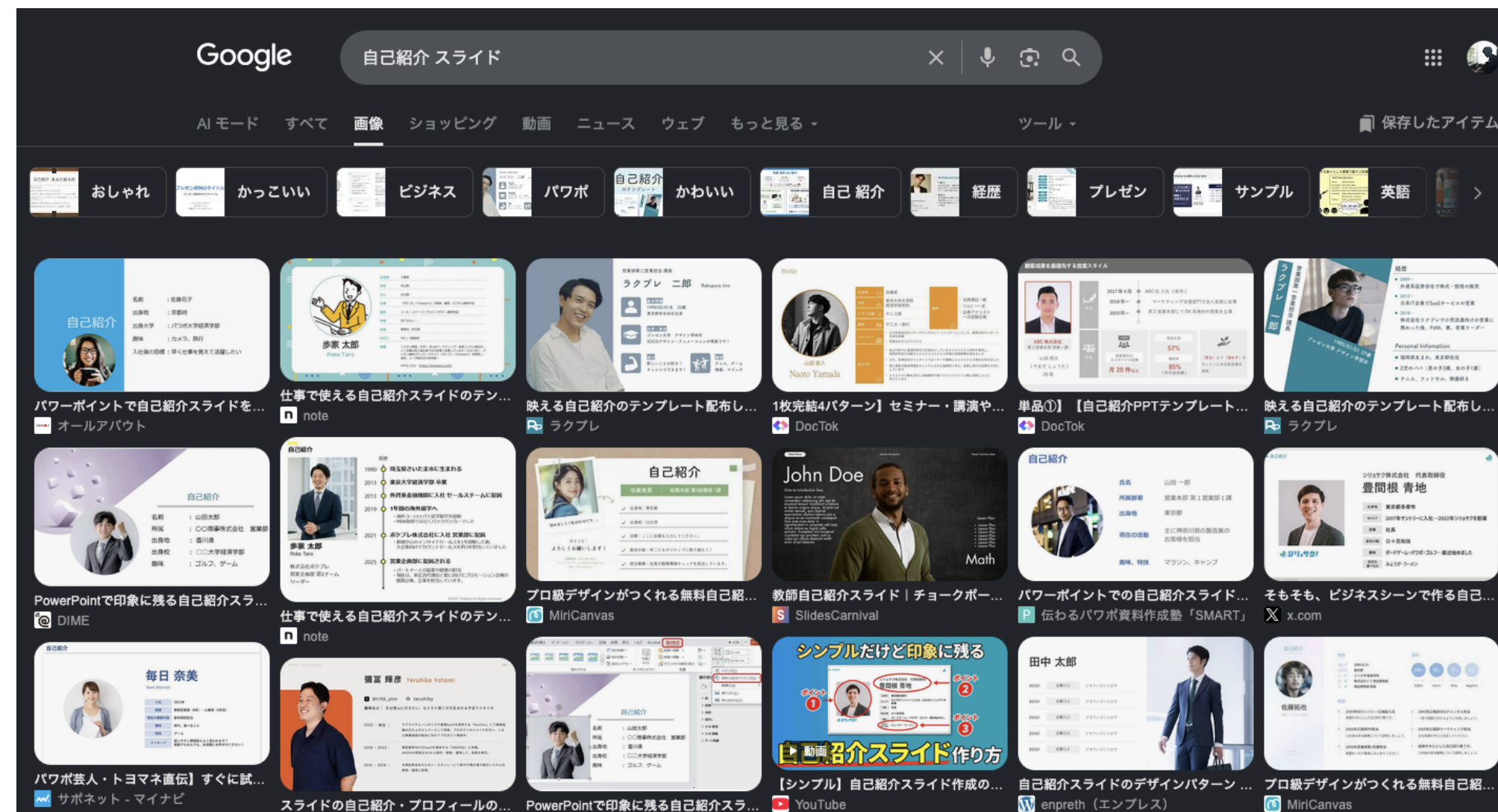
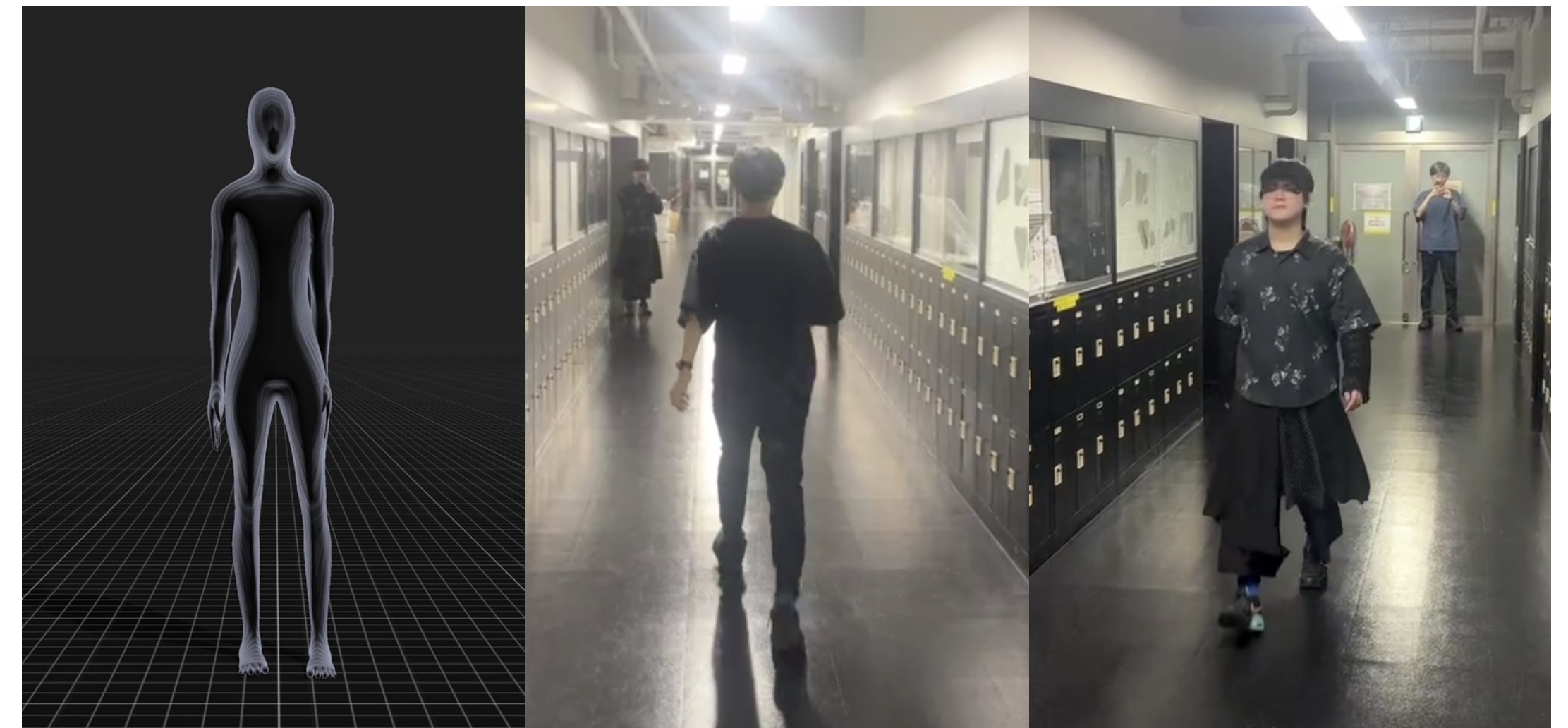


共通アバター上の個人固有歩行モーションを用いた自己表象の研究

動機



自己紹介やプロフィールの多くがデジタル媒体でやり取りされるようになった。プロフィールに掲載される情報は文章と静止画像が中心である。



そこで新しく「身体的アイデンティティ」が扱えるのではないかと考えた。特に日常動作である歩行には、姿勢、リズム、歩幅、身体の揺れ方などに容姿とは異なる人物らしさが表れている可能性がある。

モーションには個人固有の特徴が含まれる

同じ「歩く」という共通の行為の内部にも、個人固有の運動特性が現れる(2)
外見(静的な形態情報)を除去しても、人物固有の情報は運動そのものに残る(1)

その特徴は読み取ることができる

機械:モーションから人物を識別・区別できる(2)
他者:知人の動きであれば認識できる(1)
本人:自分のモーションを自分のものとして認識できる(1)

どんな人かを感じることもある

モーションによって人物への第一印象が形成される(3)

▶ モーションを自分のアイデンティティと捉えた研究はない

1 Loula, Prasad, Harber & Shiffrar (2005) "Recognizing People From Their Movement" J. Exp. Psychol. HPP, 31(1), 210–220

2 Harris, Khoo & Demircan (2021/2022) "A Survey of Human Gait-Based AI Applications"

3 Thoresen, Vuong & Atkinson (2012) "First impressions: Gait cues drive reliable trait judgements"

固有の歩行モーションが、自己紹介やプロフィールに用いる身体的な人物情報になり得るかを検討する。

容姿を中心としてきた身体的プロフィールを「動き」へ拡張し、現実の身体から取得したモーションを、現実社会における新しい自己紹介情報として利用する可能性を示す。具体的な使用場面の決定や実用性の検証ではなく、まずモーションを自己紹介に用いるという考え方が、成立し得るかを明らかにすることを目的とする。

リサーチクエスト

RQ1 自己受容/自己認知

本人は自身の歩行モーションを「自分らしい／自分を表している」と感じるか。

RQ2 自己呈示

本人はその歩行モーションを、自己紹介やプロフィールとして他者に提示したいと感じるか。

RQ3 探索的な問い

「普段どおり歩く」と「自分を表すために歩く」では、本人の意識とモーションにどのような違いが生じるか。

1.

歩行モーションの収録

mocopi で収録し、全員を共通のアバターに適用して容姿の情報を除去する。

i.

普段どおりの歩行 2 回

靴を脱いだ状態で5m程度を自然に歩行してもらう。

ii.

プロフィール用の歩行 3 回

プロフィールのモックを見せ、初対面の人に対して見せるためのモーションとして収録する。

- 綺麗さを重視しなくてよいことを明示
- 3回とも異なる動きでよい

収録後に以下の質問を行った

- 自分の歩き方に特徴はあると思うか、あるとしたらそれは何か

末澤 悠己

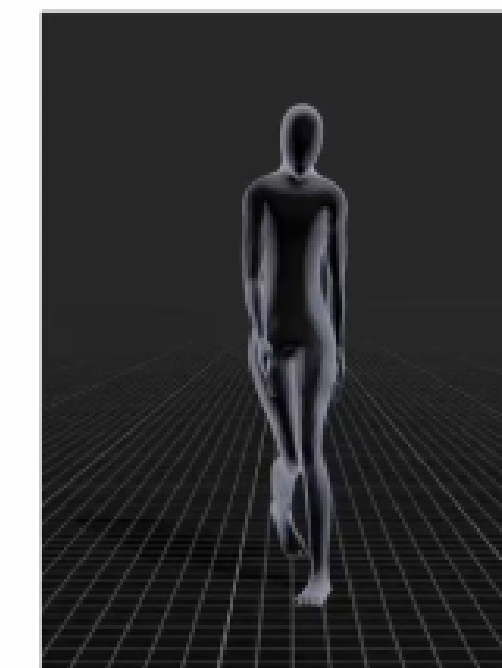
23歳：大学院生

経歴

2003年 東京都生まれ

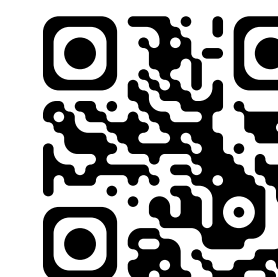
2022年 法政大学に入学

2026年 法政大学大学院に入学



プロフィールのモック(歩行モーション付き自己紹介スライド)

歩行モーション付き自己紹介スライド



2. 個人セッション

「静止画の-avatar」「他人の普段どおりの歩行」「自分の普段どおりの歩行(2回目を提示)」
「プロフィール用の歩行(3回のうち好きなものを選んでもらう)」
この4つに対して、リッカート尺度を用いた質問と、それに関する自由回答形式の質問を行った

- ・「自分らしい」と感じるか・それは具体的にどの部分か
- ・プロフィールに載せたいと思うか・それはなぜか
- ・違和感を感じたか・それはなぜか
- ・自分を偽っていると感じたか・それはなぜか(プロフィール用の歩行のみ)

質問1: お見せしたものに、**「自分らしい」と**感じましたか？

そうは思わない ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ そう思う

質問1-2: 自分らしいと思う・思わないのは具体的にどの部分でしたか？

記述欄

質問2: お見せしたものに、収録時にお見せしたモックのようなプロフィールに載せたい、と感じましたか？

そうは思わない ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ そう思う

質問2-2: プロフィールに載せたい、載せたくないと思った理由はどうですか？

記述欄

質問3: お見せしたものに、違和感を感じましたか？

そうは思わない ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ そう思う

質問3-2: モーションについて、違和感を感じた/感じていない理由を教えてください

記述欄

質問4: 逆に、プロフィール用のモーションに対して自分を偽っていると感じましたか？

そうは思わない ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ そう思う

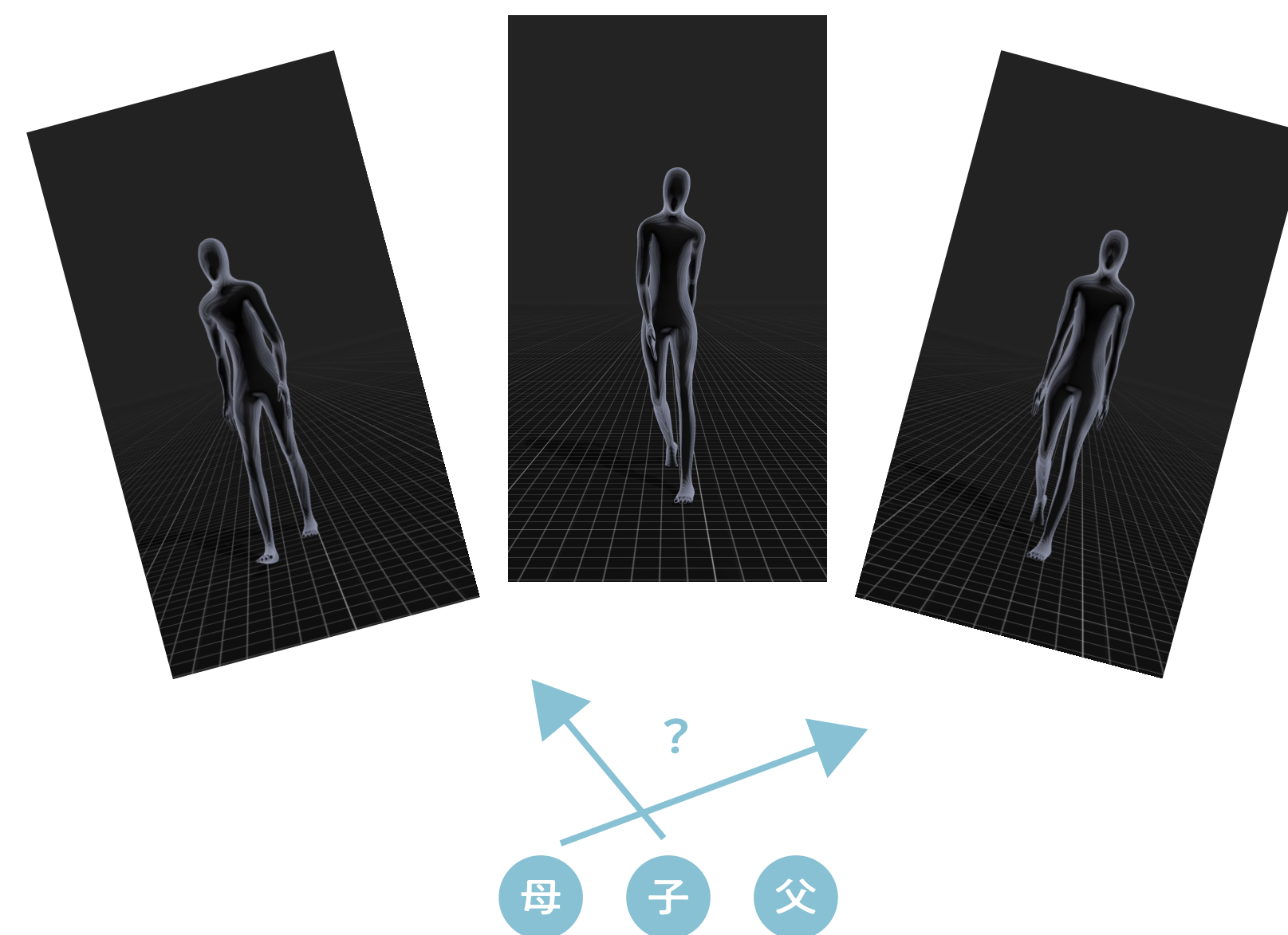
質問4-2: どうして偽っている/いないと感じましたか？

3. 家族セッション

自分のモーションを含めた家族全員のモーションを見てもらい、それぞれが家族の誰のモーションにあたるのかを回答してもらう。
結果を開示しつつ、家族の互いのモーションについて自由に議論してもらう

特に以下の内容について

- ・どこを基準に判断したのか
- ・誰の歩き方が一番その人らしいと感じたか



RQ1 自己受容/自己認知

本人は自身の歩行モーションを
「自分らしい／自分を表している」と感じるか。

今回は実験参加者が「自分らしい」と感じるかは、
人によるという結果になった

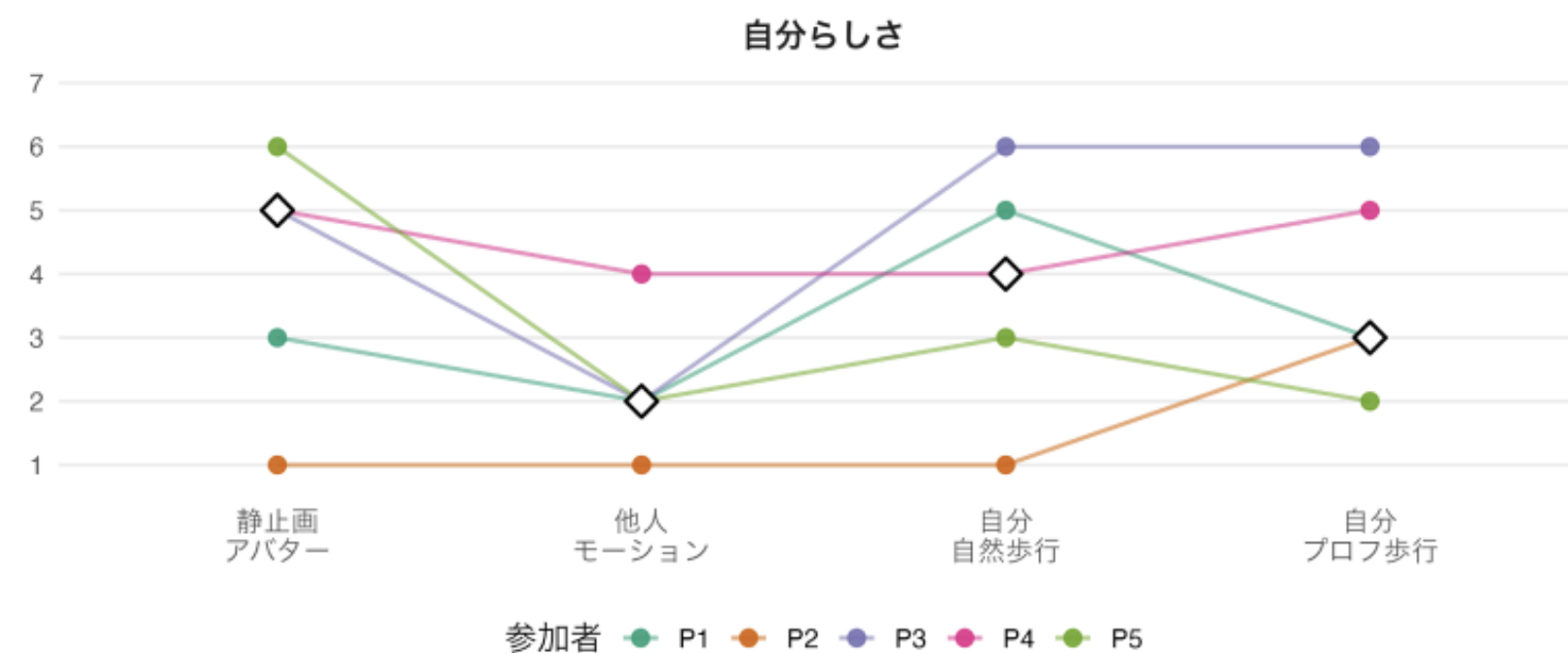


「自分の歩き方をあまり見たことがないので、結構違和感がある」



「自分の意識している歩き方と大きく差異がない」

他人のモーションに誤って自分らしさを抱くことはあまりなかった



RQ2 自己呈示

本人はその歩行モーションを、自己紹介や
プロフィールとして他者に提示したいと感じるか。

アバターの静止画や他人のモーションと比較すると、
意識した歩行(ii)を提示したいと感じる傾向にあった

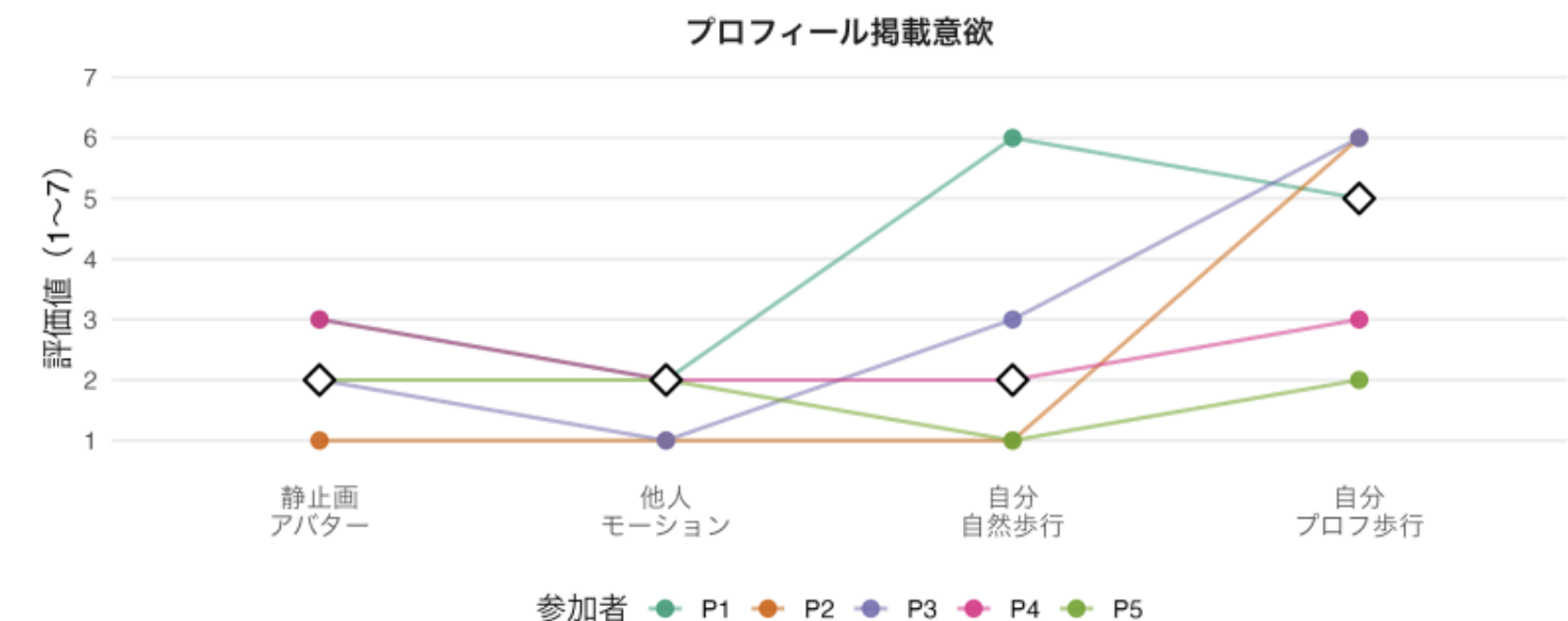


「少し自分ぽいとは思うが、そもそもあまり載せたくはない」



「プロフィールに載せるなら、もっとウォークサイクル感のある
ほうが良い」

アバターの静止画や他人のモーションと比較すると、プロフィールを
意識した歩行は提示したいと感じる傾向にあった



RQ3 探索的な問い

「普段どおり歩く」と「自分を表すために歩く」では、本人の意識とモーションにどのような違いが生じるか。

調査により人によって様々な違いがあったため事例とともにこのスライドで示す。

プロフィール用の歩行をした時におこったこと



大きな差がない

歩き方について、普段の自己認識との齟齬が大きい

「自分の意識している歩き方と大きく差異がない」



勢いと圧をつけた

自分の身体的特徴を認識してそれをより誇張する

「勢いと、圧。身体がデカイので圧が必要だと思った」



シャキッとさせた

状況に応じて歩き方を変化させる

「TPOを弁えてシャキッとすることは、別に偽証ではないと思う」



背筋を伸ばした

自分の姿勢の弱点を認識し、それを直そうとする

「背筋を伸ばした。姿勢が悪いので」



手と足が同時に出た

プロフィール用のモーションだと意識することによる緊張

「プロフィールのモーションを撮る時に手と足が同時に出てしまい、おかしいと感じた。緊張して不自然になった」

モーションは、容姿と同じように扱える可能性を秘めている



大きな差がない

歩き方について、普段の自己認識との齟齬が大きい
「自分の意識している歩き方と大きく差異がない」

自分の見た目を意識して確認している

▶ 鏡



勢いと圧をつけた

自分の身体的特徴を認識してそれをより誇張する
「勢いと、圧。身体がデカイので圧が必要だと思った」

自身の個性を伸ばすために補正する

▶ メイク



シャキッとさせた

状況に応じて歩き方を変化させる
「TPOを弁えてシャキッとすることは、別に偽証ではないと思う」

TPOをわきまえた格好をする

▶ 身だしなみ



背筋を伸ばした

自分の姿勢の弱点を認識し、それを直そうとする
「背筋を伸ばした。姿勢が悪いので」

相手へ伝わる不快感をなくすことに
努める姿勢

▶ 清潔感



手と足が同時に出た

プロフィール用のモーションだと意識することによる緊張
「プロフィールのモーションを撮る時に手と足が同時に出てしまい、
おかしいと感じた。緊張して不自然になった」

プロフィール用の素材は緊張して
ぎこちなくなる

▶ 写真

その他の気づき

家族の歩き方について

歩き方そのものを見ているわけではなく、歩き方に付随するしぐさや所作、または普段の生活から想像できる動きの特性などから判断している



「あとは、この子たち(A,P1,P3)の日頃の生活とかを見ていて、その生活に近いイメージはどの子かなと思って考えたので、歩き方そのものが、この、これだろう、これだろうというのは見てないね。」



「歩き方より、それに付随する所作、、で判断しようとはしたよ、うん。」

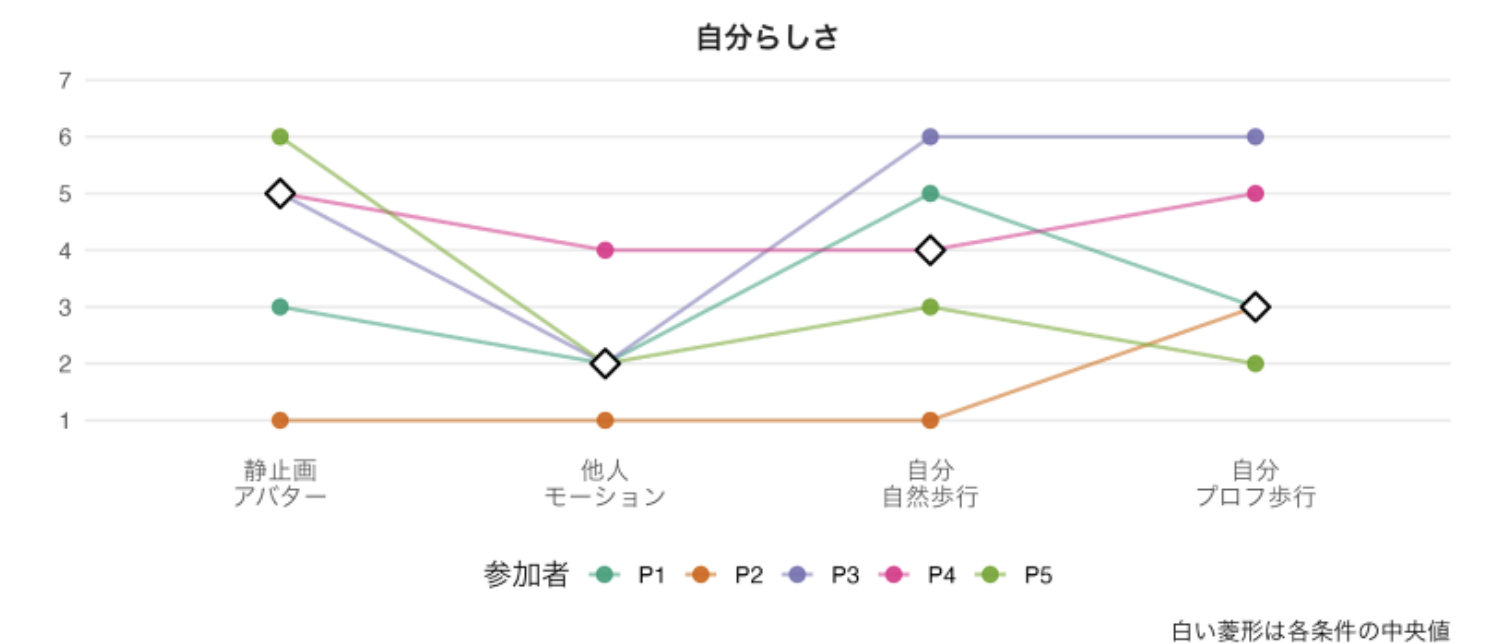
グラフから見る考察

自然歩行とプロフィール用歩行の自分らしさについて個人差がある

▶ 「どっちでもいい」わけじゃなく、自分らしさについて何らかの基準が存在している可能性が読み取れる

他者のモーションには自分らしさを感じないが、自分のものにもそこまで自分らしさを感じるわけではない

- ▶ 他者の動きと比較して、自分の動きを意識する機会がほとんどないことが原因であると考えられる
- ▶ モーションをアイデンティティとして利用する文化が醸成されるにつれ、自分のモーションに対して自分らしさを感じるようになるのでは



結論

- RQ1 および RQ2 から自身の歩行モーションを自己表象としてプロフィールに掲示したいと考える人がいることがわかった
- RQ3 から、歩行モーションは容姿と同じ側面を持つことがわかった

これらから、容姿と同じ用途で、自己表象としてプロフィールにモーションを掲載できる可能性が示唆された

展望

- さらに多くの人数での検証を行い、参加者の年代、職業、(性格)などの属性と結果の相関性を調査する
- 先行研究での手法に則り、モーション識別のトレーニングを行った上で検証を行い、結果がどのように変化するか調査する
- モーションを実際に自己紹介に使用した際の効果を検証する

謝辞

実験に協力して下さったご家族に感謝する。

また、本研究の一部にClaude Opus 5を利用した。